

第8回 狂言全集



「鬼瓦」

人間の悲しさ、
おかしさ、
愚かしさ。
狂言の哲学が
ここにある。



「宗論」

2016年10月15日(土) 14:00開演(開場13:30)

会場: 川崎能楽堂 入場料: 3,000円(全席指定)



「佐渡狐」 撮影: 神田佳明

「鬼瓦」 山本泰太郎
「佐渡狐」 山本 則俊
「宗論」 山本東次郎(人間国宝)
狂言のお話 山本東次郎

■チケット発売 平成28年9月7日(水)午前9時より川崎能楽堂窓口にて販売(先着順)*残券があれば、同日正午より電話でも販売いたします。

■チケット取扱・お問合せ 川崎能楽堂 TEL:044-222-7995 川崎市川崎区日進町1-37

■受付時間 窓口・電話 9:00~17:00*但し初日のみ電話受付は正午から。窓口完売の際は電話での受付はいたしません。

©主催/(公財)川崎市文化財団 川崎市川崎区駅前本町12-1 川崎駅前タワー・リパーク3F TEL.044-222-8821/FAX.044-222-8817

*開演後はお入りいただけない場合がございます。また、出演者等変更になる場合がございますので予めご了承ください。なお、ご購入いただいたチケットのキャンセルや変更はできません。

川崎能楽堂「狂言全集」第8回 あらすじ

狂言全集とは... 現代に息づく伝統芸能であり、人間のおかしさ、悲しさ、愚かしさを笑いや風刺に包み込んで表現する狂言。そこで演じられる人間の本质は、現代にも通じるものがあります。現在上演されている狂言はおよそ200番。この狂言全集では、その主だったものをシリーズでお届けします。狂言が初めての方も、そうでない方も、伝統芸能の奥深さ、面白さを楽しんでいただける内容です。

狂言「鬼瓦」

おにがわら

シテ(大名)..... 山本泰太郎
アド(太郎冠者)..... 山本凜太郎

難しい訴訟が叶った大名は、帰国を前に太郎冠者を伴い、因幡堂の薬師へ参詣する。勝訴の嬉しさは、たとえようもなく、薬師のおかげを強く思う大名は、本国にそれを勧請(神仏の霊を請じ迎えて祀ること)したいと思い、同じ物を作るため、建物の細部を入念に見て回る。そのうち大名は屋根の上の鬼瓦を見て、なぜか泣き出してしまう……。



撮影: 神田佳明

狂言「佐渡狐」

さどぎつね

シテ(佐渡の百姓)..... 山本 則俊
アド(越後の百姓)..... 山本 則重
アド(奏者)..... 山本 則孝

都へ年貢を納めに行く佐渡の百姓と越後の百姓、道連れとなった二人は、佐渡に狐がいるかいないかを巡って言い争いを始める。海を隔てた両国の葛藤を伏線に、張らずともよい小さな見栄を張ったがために、とんだ苦勞を背負い込む佐渡の百姓。見逃してやってもよい他愛もない嘘を見逃さずどこまでも執拗に追い詰めて行く越後の百姓。優越感と劣等感の葛藤、時代を超えた人間の弱点に問い掛ける。

狂言「宗論」

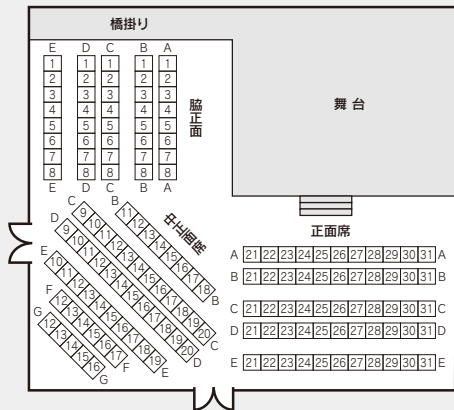
しゅうろん

シテ(浄土僧)..... 山本東次郎 アド(亭主)..... 若松 隆
アド(法華僧)..... 山本 則秀

甲斐・身延山へ参詣し都へ帰る途中の法華僧、信濃・善光寺へ参詣し都へ帰る途中の浄土僧、行き会った二人は初め意気投合したものの、やがて互いに敵対する宗派の出家と知って顔色が変わる。浄土僧を嫌って避ける法華僧、それに執拗に食らいつき嫌がらせをする浄土僧、二人はどちらの宗派の教えが有り難いか、法文によって相手を叩きのめそうと、激しい宗論を始める。たった一つの釈尊の教えが驚くばかりに枝分かれし、それぞれに敵対する愚かしさ。相手をおとしめようと始めた踊り念仏が次第に高じて、白熱する念仏合戦にいつの間にか我を忘れ、二人の出家は見失った根本を見いだして行く。



次回公演のご案内
第一〇九回 川崎市定期能
【開催日】
 平成28年12月10日(土)
 能「竹生島 女伎」「巻絹」 ほか
 出演: 梅若玄祥、角当行雄 ほか
【開催日】
 平成29年1月21日(土)
 出演: 野村万蔵 ほか
芸能サロン 狂言を楽しもう



川崎能楽堂座席表(148席)

JR川崎駅東口より徒歩5分
 ■アクセス(JR川崎駅まで)
 品川駅より約9分 横浜駅より約8分

川崎能楽堂
 〒210-0024 川崎市川崎区日進町1-37
 TEL:044-222-7995 FAX:044-222-1995